

生活単元学習学習指導案（略案）

平成26年11月14日 金曜日 2校時
 高等部 Aグループ男子3人 女子3人 計6人
 場所 高等部 2年 教室
 指導者 ○○○○(CT) ○○○○(ST)

1 単元 「後期現場実習に行こう」

2 本時の実際（15／16）

(1) 全体目標

現場実習がんばり表を基に現場実習（以下、実習）の様子を振り返り、お互いの良いところを話し合い、発表したり、次回の実習に向けての目標や今後の学校生活での目標を立てたりすることができる。

(2) 評価規準

育てたい力	評価規準	観点
自分づくり	① 他者評価を基に自分の成果や課題を知る。	【知識・理解】
関係づくり	② 自分と友達の評価を比較して話し合うことで、お互いの良いところに気付き、それを発表したり聞いたりする。	【関心・意欲・態度】 【技能】
生活づくり	③ 課題を克服するためには今後の生活で具体的にどうすれば良いか考え、目標を立てる。	【思考・判断・表現】 【技能】

(3) 個人目標

生徒	個人目標
S. S (1年, 男)	がんばり表を見て、自分や友達の良いところに気付き発表することで、お互いの努力を認め合うことができる。
A. M (1年, 女)	がんばり表を見て、自分や友達の良いところや課題に気付き、その理由を発表することができる。
K. S (2年, 男)	教師や友達と一緒にがんばり表を見て、成果と課題を確認し、今後の目標を一緒に立てることができる。
T. M (2年, 男)	がんばり表を見て、実習先での成果や課題に気付き、次の実習や学校生活での具体的な目標を立てたり、友達にアドバイスしたりすることができる。
O. S (2年, 女)	がんばり表を見て、実習先での成果や課題に気付き、友達の意見を参考にして次の実習や学校生活での具体的な目標を立てることができる。
Y. M (2年, 女)	教師や友達と一緒にがんばり表を見て、自分や友達の良いところに気付き、発表することができる。

(4) 指導及び支援に当たって

学習活動の概要と授業環境の工夫

生徒たちは、前時までの学習において、実習の様子を写真やVTRで振り返ることや実習報告会を行うこと、日誌における評価をがんばり表にシールを貼ることを通して、実習先での成果や課題を知ることができた。しかしながら、その成果や課題を具体的にどのように生かせばよいのか考えることが難しい。そこで、本時ではがんばり表の評価を基に自分や友達の頑張ったところ、もっと頑張らないといけないところを話し合い、今後の目標を立てる活動を設定した。具体的には、がんばり表の三つの観点（あいさつ・なかよく・仕事）からそれぞれが特に評価が高かったところ、低かったところを見て、成果と課題を確認する【自分づくり】。そして、「Aさんはいつも元気に挨拶しているから実習先でも評価が高かった。」と友達の頑張りを認めたり【関係づくり】、「僕は、なかよくが低かったのでこれから学校で友達に優しくするように気を付ける。」と今後の具体的な目標を立てたりすることができるようにしたい【生活づくり】。話し合い活動では、友達の様子をモデルにしたり、友達同士教え合ったり、お互いを意識し、学び合ったりすることができるようにする。

教材・教具とのかかわりについて

実習日誌の他者評価を点数化し、シールを貼ったがんばり表を準備し、評価を視覚化することで実習における成果と課題が分かるようにする。

友達・教師とのかかわりについて

友達や教師から自分の良いところや課題を教えてもらったり、友達に教えたりする話し合い活動を行うことで、お互いの頑張りを知ったり、認め合ったりできるようにする。

自分とのかかわりについて

がんばり表の縮小版を手元において実習日誌と比較しながら評価を確認することで、自分の成果と課題を知り、次の実習や今後の生活において頑張ることを目標として設定できるようにする。

(5) 実際

過程	主な学習活動	指導及び支援上の留意点	資料・準備
導入 (5分)	1 始めの挨拶をする。 2 学習内容を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> がんばり表を見て、お互いが 実習で頑張ったところを話し合 い発表しよう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> 前時に作成したがんばり表を一緒に確認することで、学習内容を思い出したり、見通しをもったりすることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> がんばり表 目当てカード
展開 (40分)	3 がんばり表から自分や友達の成果や課題を見付け、話し合う。 (1) がんばり表を見て自分や友達の成果や課題に気付く。 (2) お互いの成果や課題について話し合い、頑張ったところを見付ける。 (3) 頑張ったところをひな形に書いて発表したり、友達の発表を聞いたりする。 4 自分や友達の評価を基に、次の実習や今後の学校生活での目標を立てて発表する。 (1) 発表し合った成果や課題を基に自分の長所や短所に気付く。 (2) 長所を伸ばしたり、短所を改善したりするためにどうしたら良いか、がんばり表の観点を手掛かりに考え、話し合う。 (3) 話し合った内容をヒントに実習先や学校で頑張ることを具体的に決めて発表する。	<ul style="list-style-type: none"> がんばり表の評価の観点を実習日誌の他者評価の観点と合わせることで、実習の成果と課題をイメージしやすいようにする。 手元ががんばり表の縮小版を置き、実習日誌と比較することで、実習先の他者評価をすぐに確認できるようにする。 生徒たちが主体的に話し合い活動を行うことができるように、教師の助言は必要最小限にする。 発表用のひな形をホワイトボードに準備することで、発表内容を整理しスムーズに発表できるようにする。 顔写真カードの下にそれぞれの成果や課題を提示することで、確認できるようにする。 自分で考えることが難しいK. SやY. MにはS Tが助言し、一緒に目標を立てるようにする。 S. S, A. M, T. M, O. Sには手掛かりカードを準備し、できるだけ自分で目標を立てることができるようにする。 友達同士で確認するように言葉掛けをすることで、お互いが教え合ったり、認め合ったりできるようにする。 発表用のひな形をホワイトボードに準備することで、発表内容を整理しスムーズに発表できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> がんばり表 実習日誌 がんばり表縮小版 ホワイトボード 発表用ひな形 顔写真カード 手掛かりカード
終末 (5分)	5 本時の振り返りをする。 6 終わりの挨拶をする。	<ul style="list-style-type: none"> 本時のめあてを振り返り、学習の成果や課題を確認できるようにする。 	

(6) 評価

現場実習ががんばり表を基に実習の様子を振り返り、お互いの良いところを話し合い、発表したり、次回の実習に向けての目標や今後の学校生活での目標を立てたりすることができたか。